

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(24年8月)
—前年比伸び率は9%台を維持

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比で9%台の上昇率を維持

9月11日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(24年8月)】

- ・前年同月比は9.05%、市場予想¹(9.00%)より上振れ、前月(9.13%)から低下(図表1)
- ・前月比は0.20%、市場予想(0.13%)より上振れ、前月(1.14%)から減速した

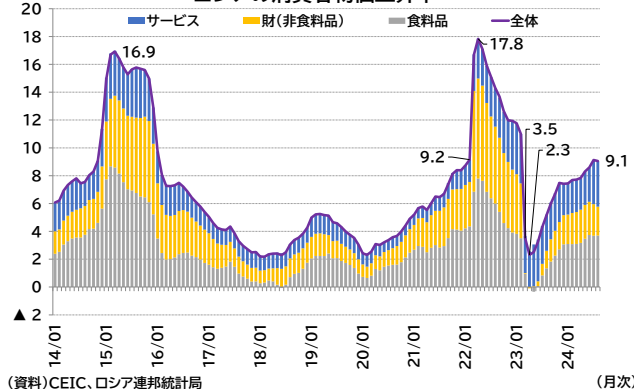
【コア指数²(24年8月)】

- ・前年同月比は8.44%、市場予想(8.23%)より上振れ、前月(8.60%)から低下(図表2)
- ・前月比は0.60%、市場予想(0.40%)より上振れ、前月(0.40%)から加速した

(図表1)

(前年同月比、%)

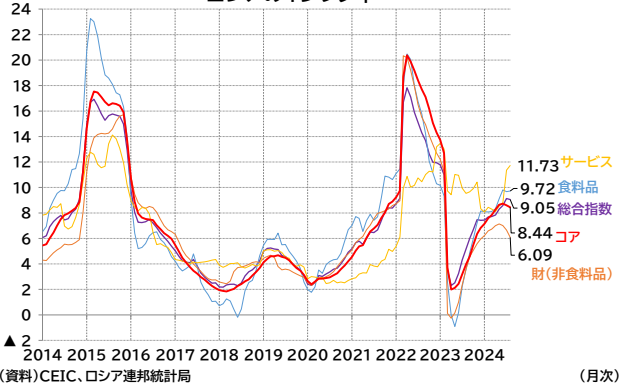
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



2. 結果の詳細:足もと前週比インフレ圧力は緩和

8月のロシアのインフレ率は前年比で9.05%となり、7月(9.13%)からは低下したものの、基調としては、23年4月(2.31%)をボトムにした上昇が続いている。なお、ロシア中銀のインフレ目標(4%)は14か月連続で上回っている。

インフレ率を大分類別に見ると、8月の前年比伸び率は食料品が9.72%(前月:9.67%)、財(非食料品)が6.09%(前月:6.66%)、サービスが11.73%(前月:11.36%)となり、財がやや低下、食料品とサービスはやや上昇した。

前年比寄与度では食料品が3.7%ポイント程度、財(非食料品)が2.1%ポイント程度、サービ

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

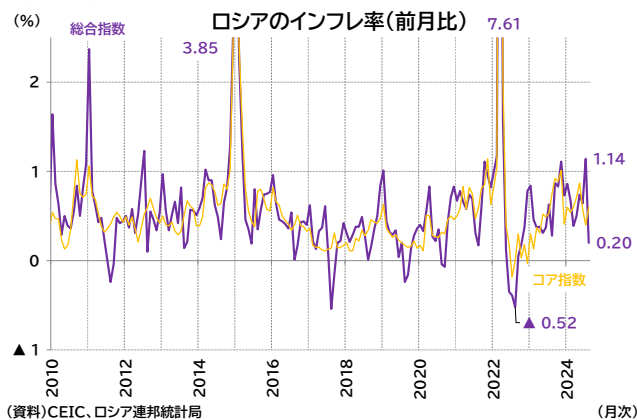
² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

スが3.3%ポイント程度だった（図表1）。

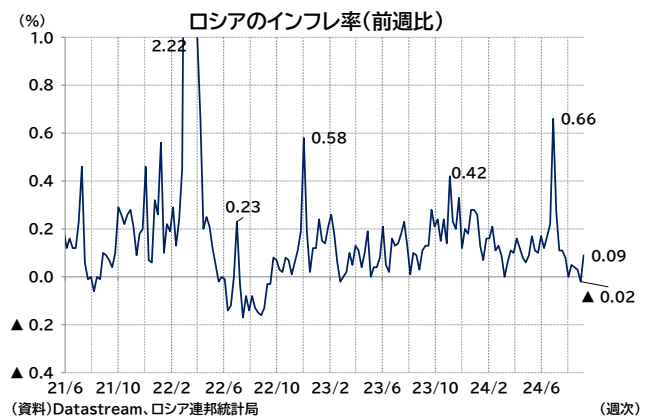
8月の前月比伸び率は、総合指数で0.20%、コア指数で0.60%となった。前月（総合指数1.14%、コア指数0.60%）は公共料金の引き上げが行われたため、総合指数は減速したものの、コア指数は加速し、コア指数はコロナ禍前の標準的な上昇率は上回った状態にある（2018年の前月比伸び率は平均で総合指数が約0.35%、コア指数が約0.30%、図表3）。なお、前月比伸び率を大分類で見ると食料品が0.27%（前月：0.36%）、財（非食料品）が0.60%（前月：0.58%）、サービスが0.01%（前月：2.86%）となった。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では最新の9月9日時点の前週比で0.09%となり、ややインフレ圧力が和らいでいる（図表4）。

（図表3）



（図表4）

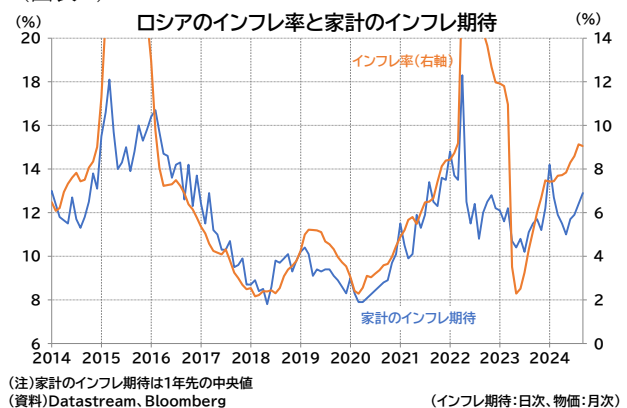


ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、8月には12.9%となり7月（12.4%）よりさらに上昇したが、過去の傾向（期待インフレ率≒前年比インフレ率+6%、図表5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率の乖離がやや拡大した（実績に対して期待インフレ率が低い）状況は継続している。

品目別の上昇率を見ると³（図表6）、8月は前
その他サービス（41.82%）、年比で卵（33.57%）、
青果物（19.29%）、バター（17.60%）の伸び率
が高い。また、前月比では、海外旅行サービス
（3.77%）、バター（2.91%）の上昇率が相対的
に大きい。一方、その他サービス（▲7.38%）
や青果物（▲3.96%）、健康増進サービス（▲
1.79%）、卵（▲1.76%）は下落が目立つ。

各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のイン
フレ率への寄与を品目別に見ると（図表7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公
益サービス（0.97%ポイント）、青果物（0.89%ポイント）、その他サービス（0.67%ポイント）、家
庭サービス（0.51%ポイント）、肉（0.41%ポイント）だった。

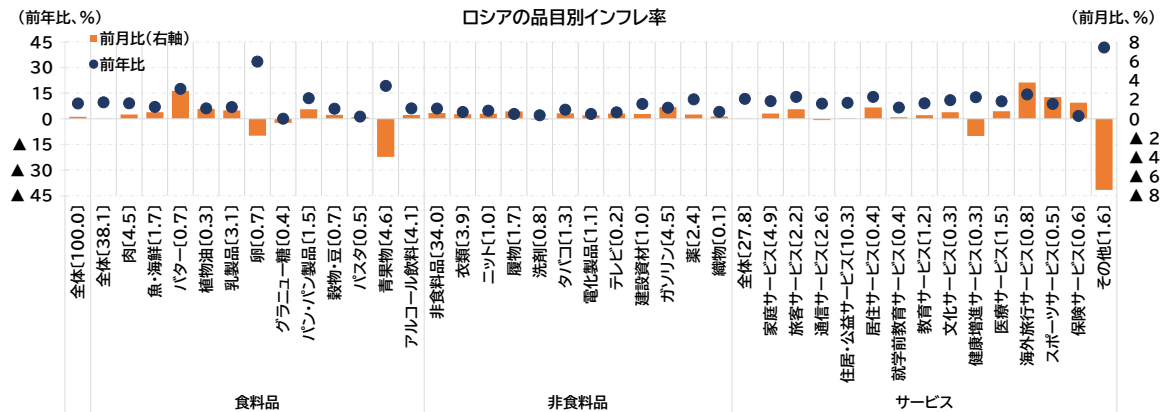
（図表5）



³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。

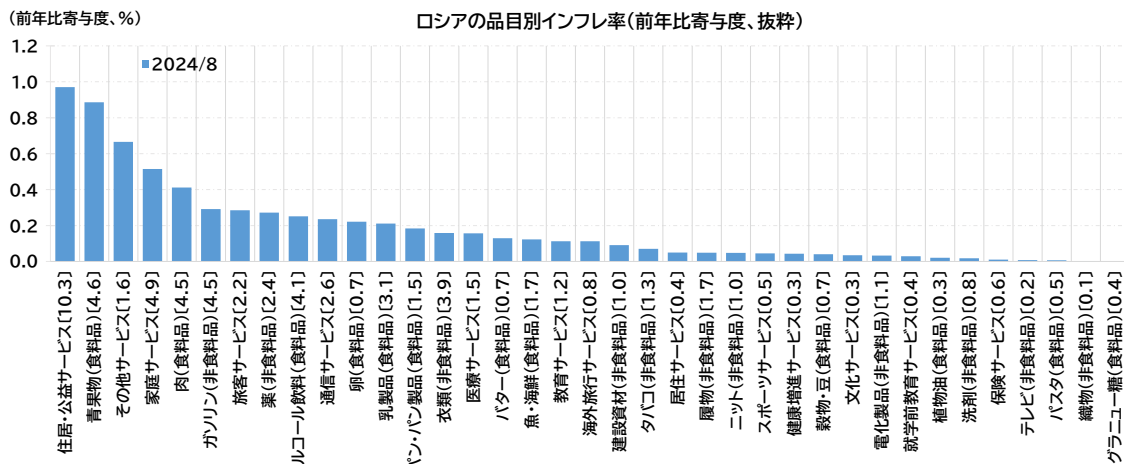
前月比上昇率の寄与では、青果物（約▲0.18%ポイント）、その他サービス（約▲0.12%ポイント）のマイナス寄与が大きかった。

（図表 6）



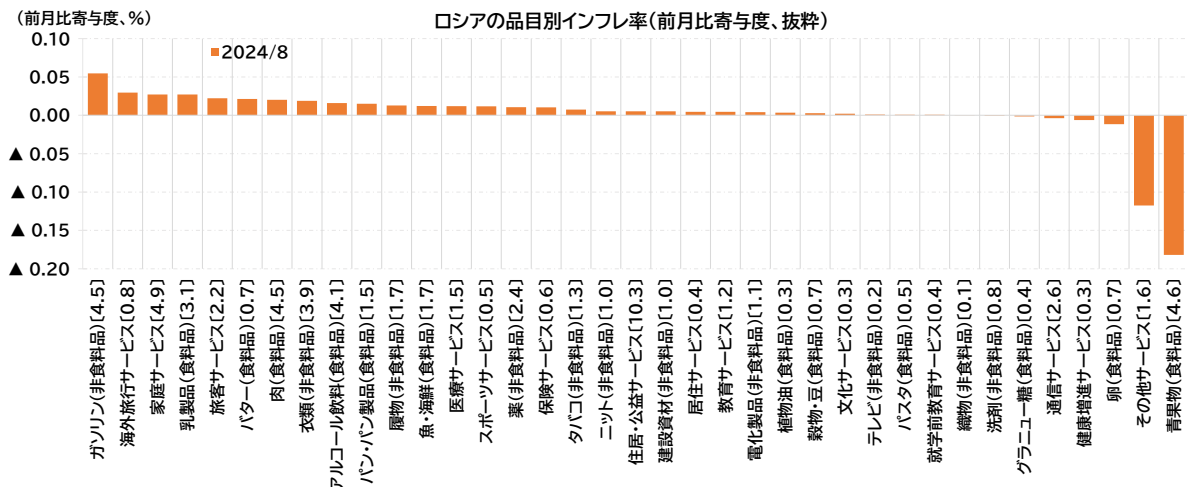
（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 7）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）



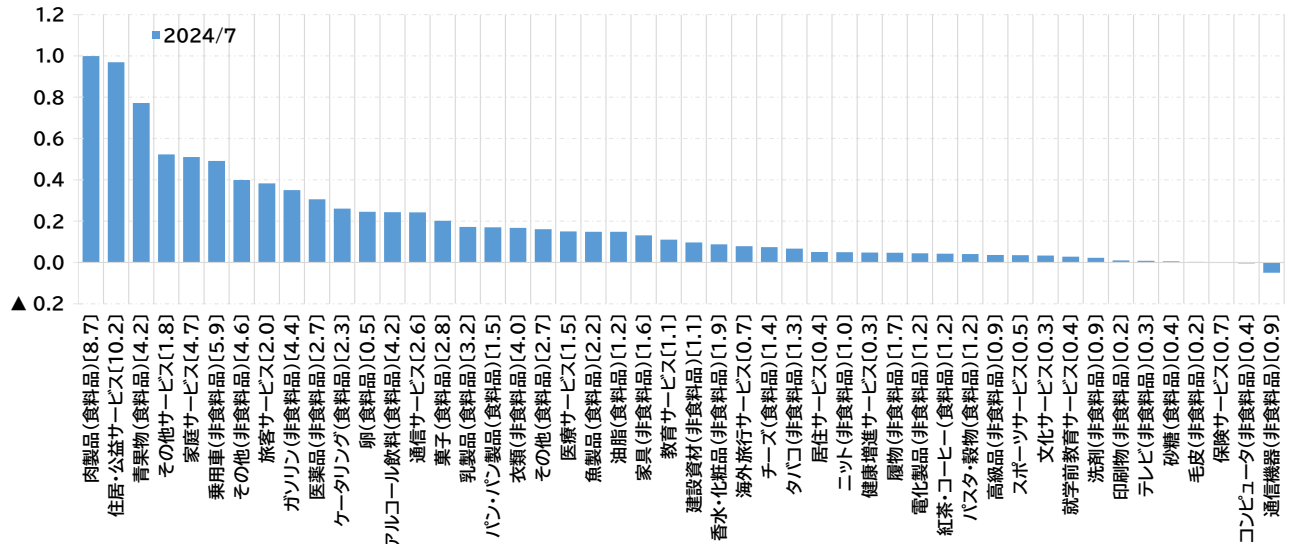
（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む7月の上昇率寄与を見ると、公共料金引き上げの影響で住居・公益サービスの物価押し上げ寄与が大きいことがわかる（図表9・10）。

（図表9）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度）



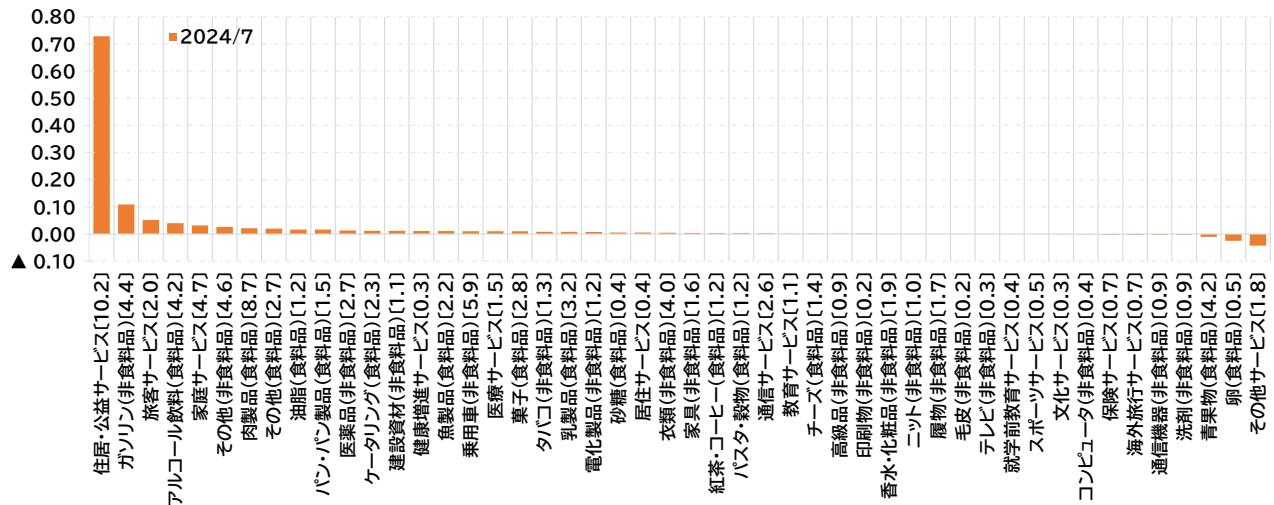
（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表10）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。